

TSU NA GA RU

一人の子どもや若者も取り残さない社会をつくる
さいたまユースマガジン

1 / 008
2024

- つながる -



特集

さいたまユースの1年を振り返って
子どもの貧困

NPO法人さいたまユースサポートネット
saitamayouth

令和6年2月発行

発行日:4月・7月・10月・1月の1日 / 発行者:さいたまユース広報 / 発行所:さいたまユースサポートネット(さいたま市見沼区堀崎町12-39)

コロナ明け元年。さいたまユースサポートネットは、地域とともに子ども若者支える理念の元に、積極的に地域の行事に参加するとともに、各事業部門では様々なプログラムを展開しました。

※記載しているプログラム以外にも多くのプログラムを実施しました。

キッズニア東京へのおでかけしました。



24-25 あそぼくすみぬま
宿泊体験

2023

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

17 あそぼくすほりさき
堀崎コモンズキッチン(子ども食堂)

※3/6(月)、5/15(月)、6/23(金)、
7/31(月)、8/21(月)、9/15(金)、
10/16(月)、12/18(月)

20-6/10 学習支援
小学生教室体験会

18 堀崎プロジェクト
ほりさきマルシェ

多くの地域の方々に来場いただき、楽しんで
いただきました。

23 はたちカ
職業人ワークショップ&講話

羊毛フェルト作家の方をお招きし、趣味から
今のお仕事につながった経緯やお仕事の面白
さについてお話いただき、その後、皆で羊毛
フェルトワークショップ体験をしました。

24 堀崎プロジェクト
早川先生講演会

27 ほりたま
ほりたまデイキャンプ

自然の中、子どもたちと野外でゲームや
料理で楽しい時間を過ごしました。

27 ほりたま
クラウドファンディング発表会

感謝を込めて、クラウドファンディングで
寄付していただいた方々に事業説明会を開催
しました。ありがとうございました。

14 就労支援
職場体験報告会&お仕事情報交流会

利用者さん2名による職場体験報告会を開催し
ました。その後、自分が経験したことがあるお仕
事(アルバイト)について情報交換をしました。

7-8 あそぼくすみぬま
1.2年生お泊り会

施設内にてお泊り、花火もやりました。

24-8/4 学習支援
小学生教室夏期講習会
進路相談会
夏期講習会

26-29 あそぼくすみぬま
3年生沖縄ツアー

B & G財団からの招待で、マリンレジャー等楽しみました

3 よのたま
『よのたま』国立科学博物館遠足

楽しかった!クラウドファンディングでいた
だいた資金で初めての遠足をしました。

4 地域のイベント
堀崎町運動会

はたちカの利用者とともに、Caféを出店して
地域の方々と交流しました。



新年あけましておめでとうございます

さいたまユースは、2021年に見沼区堀崎に拠点を移し、今年で4年目を迎えます。昨年開催した運営協議会では、見沼区の行政の代表や地元の自治会長さん、小学校の校長先生、教育相談室や市・区社協の方々、民生委員・児童委員さん、児童精神科のお医者さん、評価委員会の研究者の先生方など、多くの方々が参加してくださり、私たちの目指す「ローカル・commons」の地域づくりが着実に前進した年でもありました。

しかし、昨年から、世界では戦争が続き多くの子どもたちが犠牲になっています。日本では新年早々に能登半島を中心に大きな地震が起きました。新しい年を迎え、新たな気持ちで活動に取り組もうとしていますが、命を脅かされながら生きる子どもたちにも気持ちをさせながら、どのような環境の中で生まれようが地域の住民や行政、教育の枠を超えて、みんなで一緒に育てる、その子どもたちと一緒に地域をつくっていく、そんな活動に引き続きこの堀崎で取り組んでいきたいと思ひます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

青砥 祥子 (NPO法人さいたまユースサポートネット)



あそぼっくすみぬま
20 AED設置

職員が講習会を受けました。地域の方々に開放しています。



地域のイベント
11 見沼区ふれあいフェア

ユース初。大宮武道館の企画運営を任せられ、職員、利用者一丸となって、取り組みました。多くの家族連れの方々に楽しんでいただきました。



地域のイベント
22-23 堀崎町夏祭り

わっしょい！わっしょい！はたチカの若者とあそぼっくすほりさきの子どもたちともに、近くの神社の祭りのお神輿を担ぎました。

10/21-12/18 堀崎プロジェクト
連続講座

参加者の方々とともに、とても有意義な時間を共有しました。

10/23・12/21 就労支援
大宮工業高校 社会体験活動

大宮工業高校（定時制）2・3年生に向けて、職場見学と体験を兼ねた社会体験活動を実施しました。昨年に続き、アルファクラブさんがマイクロバスをご提供くださいました。

8月

9月

10月

11月

12月

4-5

地域のイベント
東大宮サマーフェスティバル

凄い人でした。はたチカの若者たちとともに、フェスティバルの運営を手伝うとともに、輪投げや風船釣り等を地域の子どもたちに楽しんでもらいました。



19

地域のイベント
東大宮街歩き探検

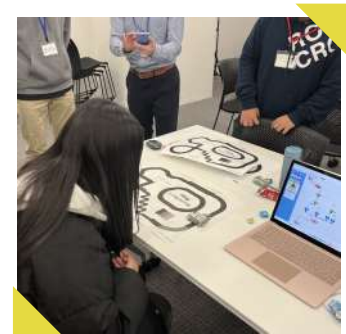
寒かった！でも、はたチカの若者が受付を担当しました。参加した子どもたちの笑顔がとても良かったです。



15-22 学習支援
小学生教室冬のお楽しみ会

28 プログラミング教室

プログラムを組んで、ライトレスカ走らせました。とても盛り上がりました。



12-13 地域のイベント
堀崎町盆踊り

6/17 第1回 理事会

6/17 総会

8/25 堀崎プロジェクト評価委員会

堀崎プロジェクト

8/31 堀崎プロジェクト評価運営委員会

堀崎プロジェクト

11/17 第2回理事会

11/17 第2回総会

帰ってきた
リアル開催！

今回の連続講座は全て
リアル開催のみとなります。

連続講座2023

子どもの貧困から15年、 こども家庭庁に求めるもの



青砥 恭

さいたまユースサポートネット

全10回開催



昨年10月から12月にかけて開催された、さいたまユースサポートネット主催の連続講座2023「子どもの貧困から15年、こども家庭庁に求めるもの」は盛況のうちに全10回を終了しました。ご参加いただきました皆様にあらためて感謝申し上げます。

「子ども貧困」という言葉や、困難を抱えて生きる子どもや若者の存在が社会問題として可視化され15年。この間、貧困問題の研究調査や子ども・若者支援の最前線で活躍してきた方々を今回は講師にお招きし、子どもの貧困の現状、広がる格差、ケアの核となる学校、学習支援の意義、貧困の市場化、ひとり親家庭や外国ルーツの子への支援など、その課題と到達点をさまざまな角度から語っていただきました。

【子どもの貧困をめぐるデータ】

7人に1人
日本の子どもの  が相対的貧困

不登校の小中学生 全国で **30** 万人

児童相談所への虐待相談 **21** 万件 **10** 倍

さいたま市内
1 万人以上 が貧困世帯の小中学生

市内外国ルーツの子
400 人 日本語支援が必要



1月16日には、連続講座を振り返る総括シンポジウムを開催。連続講座を担当された法政大学教授の児美川孝一郎さん、立教大学教授の木下武徳さん、埼玉大学准教授の磯田三津子さんに再度ご登壇いただきました。

教育の序列化や競争と管理主義を強める学校体制に生きにくさを感じている子どもや若者たち。さいたまユースは、こども家庭庁やこども大綱が掲げる、安心してつながり相談できる居場所づくり、こどもをまんなかに一人も取り残さない社会の形成を、地域の人々によるローカルコミュニティの中で実質化していけるよう、これからも皆さんとともに取り組んでいきます。

第1回



子ども家庭庁の意義と課題—子ども政策と若者政策の統合に向けて

千葉大学・放送大学名誉教授 宮本みち子氏

子ども・若者の参画は始まったばかりだが、少子化対策大綱、子若育成大綱、子ども貧困大綱を一本化した。日本には子どもや若者を意思決定に参加させるという視点がないのではないかないか。子ども大綱において子どもの貧困問題がどのように扱われるか、あまり、見えない。子どもの貧困が薄くなっているのではない。

第2回



子どもの貧困とスクールソーシャルワーク

スクールソーシャルワーカー 福島史子氏

学校のプラットフォーム論（子どもの貧困大綱・厚労省）、チーム学校論が行政側から出されているが、大綱の目玉だが現状をどう認識するか。どのような条件整備があればできるか。SSWは学校で作戦を考える立場。ア 情報収集（子ども、保護者、学校との相談、面談）、イ アセスメント（全体を俯瞰する） ウ コーディネート（多職種連携）SSWにどんな支援を得られるか、意外に知られていないのではなか。

第3回



「子どもの貧困」が照らし出す学校教育の貧困

法政大学教授 児美川孝一郎氏

この15年、子どもの貧困が可視化されて以降、日本の学校は何をしてきたか。何ができるか。教育と学校は社会を変えられるか。教育と学校が格差を再生産する事態をどう改善していくか。何が最も大きな問題か、教育現場でできることは何か。

第4回



貧困解消のために研究ができること

東京都立大学教授 阿部彩氏

経済的困難・金銭の不足=社会的脱落（物的資源の欠如、食生活への影響、学力体力の低下、ストレス（家庭内のトラブル））、貧困と社会の側の在り方、排除する側の問題、親の年収と子どもの学力は比例、ではどうすれば解決出来るか。貧困問題は子どもの貧困か。子どもに直接届く対策はなにか。労働問題、社会保障問題、住宅など貧困のど真ん中が議論されていない。

第5回



ひとり親家庭と社会的支援

しんぐるまざあず・ふぉーらむ 理事長 赤石千衣子氏

一般的には、格差は個人の問題との認識が60%、病気の人以外は働いているのが現状。母子世帯の母の平均収入は236百万円、父子家庭の父の平均収入は496百万円。児童扶養手当は最強のセーフティネット。生活保護に至る前の歯止めとなっている。ひとり親の困難を解決する為の根本は、経済的な困難の解決、就労支援、DVや児童虐待への配慮、共同親権制度の導入。

第6回



貧困問題と市場化がもたらすもの

立教大学教授 木下武徳氏

学習支援の市場化=学習支援の商品化 行政による市場化、福祉分野は利用者には金はないので行政が市場を作ること ① 社会福祉、貧困対策は市場化には向かない、金を持っていない人が対象 ②競争ができるほど事業者はいない 参入促進策が必要（収益インセンティブ） ③福祉市場は元来、市場が小さい このような公益性の大きな事業になぜ、道路建設などと同じ、入札方式を採用するか。

第7回



若者の困難と「全世代型社会保障」の行方

中央大学教授 宮本太郎氏

子どもと若者への支援が弱いのは『高齢者優先の社会保障』だからか。真の問題は、『新しい生活者困難層』を生み出す制度のあり方ではないか。新しい生活困難層とは、低所得不安定労働、ひとり親世帯の孤立・生活困窮、軽度の『知的障害』、低年金・孤立等

第8回



児童心理治療施設から見た「子どもを取り巻く社会の変化」

～「失われた20年」とその再生 こどものこころのケアハウス嵐山学園施設長 早川洋氏

子ども・若者の変化
不登校・暴力・自殺の増加/特別支援教育の急増/自分に満足出来ない若者の増加/子どもが変わった訳ではない。社会が変わった。→安心出来る環境で普通の生活を送る事が重要である。

第9回



外国につながる子ども・若者をめぐる貧困と孤立

一学校と地域がつながる教育実践の可能性 埼玉大学准教授 磯田三津子氏

外国籍の子ども 不就学ゼロへの取り組みに、地域のどのような団体が関わっているか。
日常のコミュニケーション：友だちとのかかわり/学習言語の獲得：各教科の学習と学力の形成は、学校なのか地域の支援団体なのか。

第10回



学習支援とケア

立命館大学教授 柏木智子氏

学校における子どもの貧困とは？「子どもがその所属する社会で当然とみなされている活動をするための資源を欠き、モノや文化を剥奪され、それゆえに学校で繰り広げられるさまざまな活動への十全なる参加をなしえずに周縁化され、人間としての権利や尊厳およびウェルビーイングを奪われつつある状態。



新コーナー「ユースずかん」。よく聞くあのキーワードって、実はよく知らなかったかも？
ユースでの体験談などを交えて、わかりやすく解説します。

不登校、さいたま市内は 2013人

文部科学省の調査によると、2022（令和4）年度、全国の国公私立小中学校で長期欠席している児童生徒は約46万人。このうち不登校の児童生徒は約30万人、10年連続の増加で過去最多となりました。

さいたま市立小中学校の不登校児童生徒数は、小中学校あわせて計2103人（小学校767人／中学校1336人）で、前年度に比べ479人増えました。長期欠席者は小中学校あわせて4663人で、前年度に比べ3861人減りました。これは、新型コロナウイルス感染回避のため学校に行かず自宅などでハイブリッド授業を受ける児童生徒が22年度は減少したためです。

さいたまユースでの取り組み

堀崎プロジェクト

見沼区堀崎町で、地域の学校、スクールソーシャルワーカー、民生委員・児童委員、行政、企業などの地域ネットワークで子ども・若者問題の解決を目指し、支援する取り組み

子ども第三の居場所あそぼっくすほりさき

子どもたちが孤立しやすい放課後の時間に、家庭や学校以外で、信頼できるおとなや友だちと一緒に安心して過ごせる小学生のための居場所を提供

ユースのサッカークラブ

経済格差に起因する体力格差を防ぐことを目的に、スポーツを通して体力づくりをしながら、若いコーチや地域のおとなと交流し、生きる力を養い良好な人間関係を構築する

就労支援事業はたチカプログラム

さまざまな事情を抱え働きたくても働けない若者をサポート。キャリアコンサルタントの資格を持つスタッフと一緒に自らの「働く力」を引き出し、社会へ踏み出す

求められる 学校以外の「居場所」

さいたま市内の不登校児童生徒 2103人のうち、支援機関や居場所機能などにまったくつながっていない子が約700人程度おり、前年度の約500人と比較してもかなり増えています。不登校の子のうち実に3割超が、なんの相談や支援を受けられていない、誰ともつながれていない状況というのは非常に深刻です。

さいたま市教委が開設している不登校等児童生徒支援センター「Growth」やメタバースでの仮想教室などのオンライン空間も好評である一方で、オンライン環境に到達できないような生活状況にある子を、さいたまユースは行政や学校などと連携して支援しています。

居場所がなく困難や不安を抱えた子ども・若者たちの声に耳を傾け、さまざまな形でこれからも支えていきます。

さいたま市若者自立支援ルーム

大宮区の桜木町と南区の南浦和に開室。不登校や高校中退など生きづらさを抱え、社会から孤立しがちな若者たちが、安心して過ごせる居場所を提供

たまり場

年齢や国籍や所属に関係なく、だれもが対等な立場で参加でき活躍できる「たまりん（交流）」と「まなびん」（学習・学び直し）の場

さいたま市学習支援事業

生活に困窮している世帯の小学生、中学生、高校生を対象に、基礎学力の定着や一人ひとりの目標に沿った学習のサポート、進路相談などを実施

居場所堀崎こもんずたまり場

年齢や国籍や所属に関係なく、だれもが参加できる通称「ほりたま」。芸術・音楽・スポーツ・遠足など多彩なプログラムを通して、地域での仲間づくりと体験を提供

ルームここから

上尾市の若者自立支援ルーム。学習、アートや音楽、体を動かすプログラムなどを通して他者とゆるやかにつながり生きる意欲を回復することを目指す居場所

D君（小5）

両親と6人兄弟家族（非課税世帯）。SSWからの紹介で2021年7月に兄と一緒に入所しました。

入所前から兄弟共に不登校の状況で、保護者と面談し、まずは職員との信頼関係作りから始め、少しずつ同じ子どもたち同士との関わりを増やし、小学校へ登校できるように支援しました。施設への登所は徐々に増え、子ども同士の関わりは増えたものの、現在も不登校の状況が続いています。SSWとも引き続き連携をとりながら、学校への登校復帰を目指しています。

Eさん（小4）

小学校のSSWから紹介を受け、居場所の見学にきました。小学校2年生の時に、担任の先生と相性が合わずに不登校になり、現在も時々足を運ぶ程度です。居場所では、他の子どもとの交流が出来るのが嬉しいようで、頻繁に来ています。居場所でのイベントにも頻繁に参加し、科学館への遠足やデイキャンプなども楽しんでいます。当初は、寡黙で他の人と話すことも出来ませんでした。今は、自分から周囲の子どもたちに声をかけて、遊ぶようになりました。

地域とつながる、あなたとつながる。

株式会社オーガニック・ハーベスト丸山 のご紹介

私達「株式会社オーガニック・ハーベスト丸山」の愉快的仲間達は、日本の農業そして見沼地域の農業を元気にすることで、地域の皆様の健康と地域環境を支え、緑の経済活動を活性化し、子供からお年寄りまで食を通じて絆で結ばれた「農のある幸せな都市づくり」実現を目標として、日々奮闘しております。

農業に志をもった若者達が、弊社理念のひとつでもある「一人は皆の為に、皆は一人の為に、そして社会の為に」を胸に刻み、仲間と共に、一生懸命「楽しく儲かる農業」を実践しております。「見沼の絆」ブランド野菜をお近くのお店で是非ご賞味ください。

理念と志

- 楽しく儲かる農業
- 食育、環境、命の繋がりを伝える
- 一人は皆の為に、皆は一人の為に、そして社会の為に
- 農のある幸せな都市づくり



こだわりの土づくり

さいたま産の鶏糞を蓮沼の須賀養鶏さんより頂き、25㎡に一袋の割合で野菜畑に施します。通常の化成肥料に比べると、4倍ほどの量を散布するので手間がかかりますが、鶏糞はアルカリ性で微量要素も含んでいるので、酸性土壌の中和と土中微生物の活性化に効果があります。さいたま産の有機肥料でフワフワの栄養たっぷりの土で野菜たちが元気に育っていきます。

私達（株）オーガニック・ハーベスト丸山は、「見沼の絆」ブランド農産物を「世界灌漑施設遺産」に認定された見沼代用水の水を使い、「日本ユネスコ未来遺産プロジェクト」の活動として、見沼地域産の農作物を地産地消しています。

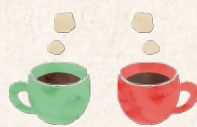
そこに農地があるだけで

そこに農地があるだけで、農地は、二酸化炭素や窒素酸化物を吸収してタンパク質とビタミンを生成しています。大雨の時には、洪水を防ぎ、ヒートアイランド現象を緩和し、適度な湿度と気温を調節しています。さいたま市の緑の7割以上は農地がしめ、地域環境を守っています。また農業は、緑の経済活動として地域経済に大きく貢献しています。ぜひともこの事をご理解いただき、地場産農作物を活用して、ともに「農のある幸せな都市づくり」を育てていけたら幸いです。地域の皆様と話し、触れ合えることは、本当に嬉しいことです。豊かな緑と食に満ち溢れたまちづくりをしてまいります。

事業内容	野菜の生産・加工・販売、各種マルシェ販売会、体験農園他
主な販売先	大宮高島屋、ヤオコー（蓮沼店、盆栽町店）、マルエツ（東門前店）、マミーマーケット（南中野店）、生鮮トップ（新都心店）、農協直売所（木崎ほか）、学校給食、レストラン、各種マルシェ 他
会社所在地	さいたま市見沼区蓮沼 1694 番地 Tel: 090-5999-8085 / fax: 048-687-0140
代表取締役	丸山文隆
栽培品目	ブロッコリー、リーフレタス、キャベツ、白菜、ほれんそう、小松菜、ネギ、モロヘイヤ、大根、紅大根、人参、さつまいも、なす、ピーマン、オクラ、スイスチャード、米 他
体験農業	小学校チャレンジスクール、中学校・高校の職業体験、保育園の親子農業体験、各種団体とのコラボレーションイベント他

《 応援プログラム 》

あなたのおかげで、
できることがたくさんあります。



たとえコーヒー 1日 1杯分のご寄付でも子どもや若者たちを救えます。

貧困、いじめ、不登校、引きこもり、障害、高校中退……生きづらさを抱えた子どもや若者たちがいます。その困難が、「社会の中で見えづらくなっている」そのこと自体が私たちの課題です。

お金だけではなく、物品のご提供でも
子ども・若者支援のチカラとなります。

子ども・若者のために
寄付をする



月1,000円

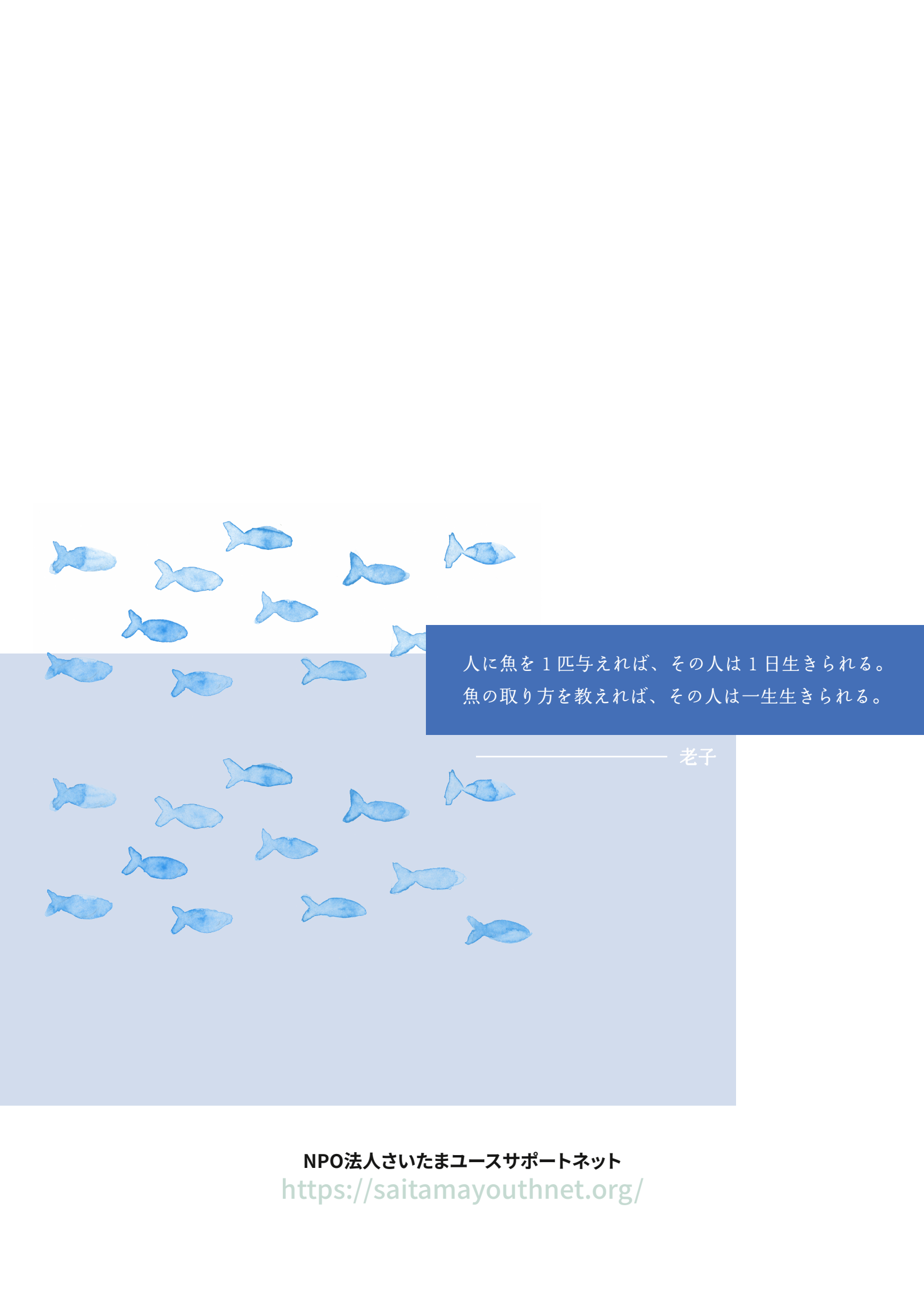
食事を児童3人に1日提供できます。児童に勉強を教えることができます。

月3,000円

食事を児童3人に3日間提供できます。子ども1人に体操着・上ばきなどを提供できます。

月5,000円

食事を児童3人に5日間提供できます。絵具、書道セットなどを提供できます。



人に魚を1匹与えれば、その人は1日生きられる。
魚の取り方を教えれば、その人は一生生きられる。

老子